

令和 6 年度 幼稚園評価

学校法人 慈光学園
ひかり幼稚園

○教育理念

仏教のみ教えをもとに、学校教育法の趣旨に基づいた教育を行う。人を思いやる優しい心、粘り強いたくましい心、様々な事に感謝する心を育てることを理念とする。

○教育方針

ほとけさまをおがみ 感謝と報恩に努めましょう

よく見 よく聞いて 自分で考えましょう

元気に遊び 強くなりましょう

○本年度に定めて、重点的に取り組むことが必要な目標計画、幼稚園評価の具体的な目標や計画

- 1、 多くの体験、経験から知識を得て、人と人の繋がりに感謝する。
- 2、 言葉に親しみを持ち、多くの児童文化に触れ豊かな心を育む。
- 3、 体を十分に動かし、心身の発育を促す。
- 4、 季節の移り変わりや経験を様々な画材を使い表現する。
- 5、 挨拶の励行や心を込めてお礼を伝えることの大切さを知る。
- 6、 相手を思いやりながら、会話や活動を楽しむ。

○評価項目

項目	理由
教育活動の充実	・遊びの中で、様々な経験から知識を得て、幼児が主体的に創意工夫を遊びの中に発展出来るように働きかける。 ・小学校に向けて話を聞く姿勢、また話を聞く事は自分の安全を守る事に繋がる事を伝える。 ・1から10までの数の概念（合成・分解）を遊びの中から理解し更に理解を深められるように、保育の中で発展的な指導を行う。 ・文字に親しみを持ち、50音の「読み」「書き」を習得出来るように指導する。 ・経験画などの絵画製作や、折り紙や絵の具などを使った製作、幼児が楽しんで行えるように働きかける。また季節を感じて製作を行えるような工夫をする。 ・音楽リズムでは、ピアノだけでなく、マーチングキーボード、ベルリラ、木琴、小太鼓、大太鼓、などの様々な楽器に触れて音楽リズムの楽しさ、多くの人と音を合わせて演奏する楽しさを知る。また年長児は、主体的に演奏、演技が出来るように考えて取り組めるように指導し、励ます。 ・年中児、年長児は、英語の専門教員から指導を受ける。英語が勉強の1つになる前に、楽しく「話す」「歌う」を主とした、遊びの中の英語指導をする。

道徳教育情操教育の充実	・毎月1回、願生寺本堂にて、住職からの法話を聞く。法話内容は、「思いやりを持って人と関わる事」や「命の大切さ」、「感謝の気持ちを持つ事」などの道徳教育や情操教育などの要素を含んだ内容の話をする。 ・命あるものすべてを敬い、動物も草花の命も私たちと同じ命である事を知り、私たちは毎日いろんな命を頂いて「生かされている存在」であることを知り、命の大切さ、尊さを仏参や、給食の時のお話を聞いて学ぶ。 ・トイレのスリッパを揃える事、絵本の背表紙を揃えて片づける事、共用の玩具や用品を揃えて片づける事は、次に使う人の事を考えた行為である事を知り、自然に行えるように指導する。 ・週2回、保育室にて担任の先生より仏参を行う。住職の法話で学んだ事を話し合い、またそれに関連した児童文化を使用して幼児にわかりやすく話をする。 ・副教材「言葉と作法」読本を、仏参の中で読み、家庭に持ち帰って、園で話し合ったことを保護者とも話して、学びを深める。
基本的な生活習慣	・すべての挨拶が習慣化するように働きかける。 ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」「しつれいたします」のご挨拶を覚え、自然に言えるように促す。 ・衣服の乱れが、自分で整えられるように働きかける。トイレ後は、アンダーシャツが衣服から出ているか自分で確認し整える。靴下が下がっていれば、上まできちんと上げるように促す。 ・衣服以外にも、自分の身の回りを清潔に保てるように促す。手洗い、うがいは自分から進んで行える

慣	ように励まし、感染症対策として、自分のハンカチの始末や手指の消毒も自分で行えるように励ます。 ・脱いだ靴は左右を揃え、靴箱などはきちんと整えて片づけられるように促す。 ・ロッカーやお道具箱の中の用品の整理整頓を自分で行い、スモックなどの衣服は表に返してフックにかけられる様に促す。 ・絵の具、クーピー、ワークブックなどの用品を片づける場所を覚え、大切に扱えるように指導する。
安全管理	・各受け入れ職員は、視診触診を行い、体調不良や怪我の有無を確認する。 ・遊具、玩具、用具の使い方のオリエンテーションを4月に行う。オリエンテーションを行ってから、遊具は使用するよう指導する。 ・怪我のないように、はさみ等の用品の使用方法を指導する。 ・危機管理マニュアル、バス運行マニュアルを全職員が熟読し、園児が安全に過ごせるように有事の際には適切に動くことが出来るようにする。このマニュアル類は、職員だけでなく、ひかり幼稚園に出入りする関係者には全員に配布し周知する。 ・園舎、遊具は定期的に専門家による点検を行う。また職員が定期的に目視確認を行い、常時安全に使用できるようにする。 ・地震、火災、不審者対応の避難訓練を定期的に行い、また防災頭巾の使い方を訓練時以外でも指導する。 ・ガスコンロのある給食室は、園児だけで入らず、必ず教員と一緒に入ることを指導する。
小学校	・小学校入学前に常磐小学校へ授業見学をさせてもらう。校舎や校庭なども見学させてもらい、小学校入学に対して期待を持てるようにした。年長児は小

と の 連 携	学校の話を保育の中に含めて、スムーズに学校生活が接続できるように励めます。
園 外 活 動 の 充 実	・多くの経験から学びを深めていく為に、様々な園外での保育プログラムを設定する。年長児だけでなく、すべての学年の園児が、園外活動に参加する。 ・港見学では、四日市港ポートビルに出向き、港の仕事や役割を学ぶ。自分たちの住む町は貿易の町で、いろんな国と繋がっていることを学ぶ。 ・プラネタリウム見学では、四日市市博物館の「そらんぽ」に出向き、プラネタリウムを鑑賞する。七夕の物語や、夏の星座や星を学ぶ。 ・芋ほり遠足では、寺方町にある芋畑へ芋ほりをする。葉の形や植物の生長の仕方を学ぶ。 ・文化会館へ人形劇を観劇に行く。 ・四日市中消防署へ消防署見学に行く。（年長児） ・春（親子）、秋、お別れ、の遠足に出掛ける。 ・年長児は、奈良県の曽爾村へ宿泊保育に出掛け、保護者と離れて自立心を育てる。
食 育	・調理室の場所を知り、食器の片付け等を園児自身が行い、感謝する心を育てる。 ・調理員さんのお手伝い（野菜の皮むきなど）の体験をする。 ・「自分で作るおにぎり」「手巻き寿司」などの体験型の献立で、自分で作る楽しさを知る。 ・お餅つきをして、お持ちの出来る過程や、おくどさんなどを見学する。 ・園内、又は園外で野菜や果樹を育てる。収穫した後、自分たちで調理する。（サツマイモ、ジャガイモ、ミニトマト、柿、巨峰など） ・調理体験、カレーライスなど。

今後の反省と取り組むべき課題

- 評価基準
- A：達成できている
 - B：おおむね達成できている
 - C：取り組んでいるが成果が出ていない
 - D：取り組んでいない

項目	結果	理由
教育活動の充実	A	・年中児・年長児においては子ども達が主体となって活動に取り組むことが出来た。年少児は生活の基本をしっかり習得するところから始めて、自分の事は自分で行う力を培うことが出来たように思う。 ・文字に興味が出てくる年少児には字形での認識が持てるように、おもちゃや本棚の表示などを工夫し、また年中児には読む・書くを少しずつ習得出来るよう進めてきた。書く時の姿勢や筆圧、マスの中からはみ出さないように書くなどの注意点を、個々に気を付けながら取り組むことが出来ていた。年長児になると、自分の思いを文章にして表現する事を目標に、社会見学などでお世話になった事業所等にお礼の手紙を書く、という活動にも取り組んでもらった。 ・数の概念は、1～10までの数はもちろんそれ以上の大きな数にも興味を持てるような遊びの工夫をしていた。ワークブックの取り組みももちろんであるが、遊びの中での数の分解や合成を楽しむ姿も見られた。おままごとや園庭での遊びの中で、物を分け合うなどの場面で、均等という分け方も知り得ることが出来た。 ・経験画は、港見学、夏休みの思い出、芋ほり、運動会、消防署見学、餅つきなどの行事毎に取り組むことが出来た。学年によって手法は異なるが、クレパスだけでなく絵の具などの様々な画材を使用して、子ども達に絵画の楽し

		さを知ってもらうことが出来た。 ・月毎の製作活動では、折り紙や新聞紙などの いろいろな材料を用いて、季節が味わえるテーマ で取り組んでもらった。 ・ピアニカやカスタネットを使ってのリズム遊 び、音楽遊びを楽しむことが出来た。簡単な曲 の演奏から音階を覚えたり、リズムの取り方を 覚えることも出来た。ピアニカ、カスタネット だけでなく、マーチングキーボード、ベルリ ラ、マリンバ、小太鼓、大太鼓、シンバル、 鈴、タンバリンなどの楽器に親しむことが出来 た。一人で演奏するだけでなく、皆と一緒に音 を合わせて演奏する事を楽しむことが出来た。 ・年中児、年長児は体育の専門教員から体育指 導を受け、基礎的なことから専門的なものまで さまざまな体を動かすときの注意や楽しみ方を 学ぶことが出来た。鉄棒や縄跳びなど、個々に 目標を立てて、子ども達が自ら進んで挑戦する 気持ちを育むことが出来た。 ・茶道専門教員より、作法の指導を受け、所作 ふるまい、居ずまいなど、正しい姿勢やおもて なしの心を学んだ。 ・英語の専門教員から英語を使った遊び、歌な どを楽しむことができた。
道 徳 教 育 情 操 教 育 の	A	・毎月1回、願生寺本堂にて、住職からの法話 を聞いた。法話内容は、「思いやりを持って人と 関わる事」や「命の大切さ」、「感謝の気持ちを持 つ事」などの道徳教育や情操教育などの要素 を含んだ内容の話を聞いた。 ・命あるものすべてを敬い、動物も草花の命も 私たちと同じ命である事を知り、私たちは毎日 いろんな命を頂いて「生かされている存在」で ある事を知り、命の大切さ、命の尊さを学ぶ ことができた。 ・トイレのスリッパを揃える事、絵本の背表紙 を揃えて片づける事、共用の玩具や用品を揃え て片づける事は、次に使う人の事を考えた行為

充 実		である事を知り、自然に行えるように指導し、園児一人一人が、生活習慣の一つとして習得する事ができた。 ・週2回、保育室にて担任の先生より仏参を行った。住職の法話で学んだ事を話し合い、またそれに関連した絵本や紙芝居などを使用して幼児にわかりやすく話をした。 ・副教材「言葉と作法」読本を、仏参の中で読み、家庭に持ち帰って、園で話し合ったことを保護者とも話して、学びを深めることができた。
基 本 的 な 生 活 習 慣	A	・朝や帰りの挨拶は積極的に行えるように働きかけをした。 ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」「しつれいいたします」のご挨拶を覚え、自然に言えるよう習慣化することが出来た。 ・衣服の乱れが、自分で整えられるように働きかける。トイレ後は、アンダーシャツが衣服から出ていないか自分で確認し整える。靴下が下がっていれば、上まで上げられるようになった。 ・衣服以外にも、自分の身の回りを清潔に保つことが出来た。手洗い、うがいは自分から進んで行えるように励まし、感染症対策として、自分のハンカチの始末や手指の消毒も自分で行えるようになった。 ・脱いだ靴は左右を揃え、靴箱などはきちんと整えて片づけられるようになった。 ・ロッカーやお道具箱の中の用品の整理整頓を自分で行い、スモックなどの衣服は表に返してフックにかけることが出来るようになった。 ・絵の具、クーピー、ワークブックなどの用品を片づける場所を覚え、大切に扱えるように指導する。

安全管理	A	・各受け入れ職員は、視診触診を行い、体調不良や怪我の有無を確認した。 ・遊具、玩具、用具の使い方のオリエンテーションを4月に行う。オリエンテーションを行ってから、遊具は使用するよう指導を行った。 ・怪我のないように、はさみ等の学用品の使用方法を指導した。 ※はさみを持って立ち歩かない、はさみを人に向けない、はさみを持って後ろを振り向かないなど。 ・危機管理マニュアル、バス運行マニュアルを全職員が熟読し、園児が安全に過ごせるように有事の際には適切に動くことが出来るようにする。このマニュアル類は、職員だけでなく、ひかり幼稚園に出入りする関係者には全員に配布し周知することが出来た。 ・園舎、遊具は定期的に専門家による点検を行う。また職員が定期的に目視確認を行い、常時安全に使用することが出来た。 ・地震、火災、不審者対応の避難訓練を定期的に行い、また防災頭巾を訓練時以外でも使い方のお話をしたり使ったりすることで、ロッカーからの出し入れがスムーズに行えるようになった。 ・ガスコンロのある給食室は、園児だけで入らず、必ず教員と一緒に入ることを指導した。火の恐ろしさについて、火災の避難訓練時に話をし、子ども達に知ってもらうことが出来た。
小学校との連携	B	・小学校入学に対して期待を持てるように年長児は小学校の話を保育の中に含めて、スムーズに学校生活が接続できるように励ます。 ・年長児が、常磐小学校の校舎、授業の見学をさせていただき、小学校入学への期待を持つことが出来た。

園外活動の充実	A	・多くの経験から学びを深めていく為に、様々な園外での保育プログラムを設定する。年長児だけでなく、すべての学年の園児が、園外活動に参加する。 ・港見学では、四日市港ポートビルに出向き、港の仕事や役割を学ぶ。自分たちの住む町は貿易の町で、いろんな国と繋がっていることを学ぶ。 ・プラネタリウム見学では、四日市市博物館の「そらんぽ」に出向き、プラネタリウムを鑑賞する。七夕の物語や、夏の星座や星を学ぶ。 ・芋ほり遠足では、寺方町にある芋畑へ芋ほりをする。葉の形や植物の生長の仕方を学ぶ。 ・文化会館へ人形劇を観劇に行く。 ・四日市中消防署へ消防署見学に行く。(年長児) ・春(親子)、秋、お別れ、の遠足に出掛ける。 ・年長児は、奈良県の曽爾村へ宿泊保育に出掛け、保護者と離れて自立心を育てる。
食育	A	・調理室の場所を知り、食器の片付け等を園児自身が行い、感謝する心を育てる。 ・調理員さんのお手伝い(野菜の皮むきなど)の体験をする。 ・「自分で作るおにぎり」「手巻き寿司」などの体験型の献立で、自分で作る楽しさを知る。 ・お餅つきをして、お持ちの出来る過程や、おくどさんなどを見学する。 ・園内、又は園外で野菜や果樹を育てる。収穫した後、自分たちで調理する。(サツマイモ、ジャガイモ、ミニトマト、柿、巨峰など) ・調理体験、カレーライス、ピザトースト、フルーツゼリーなど。

○総合的な評価　：　A

子ども達が主体的にいろんな活動に取り組むためには、基本となる生活の基盤が盤石であることが大切であると考えています。制服や帽子、靴などの身なりを整えることや、正しく着用する事は、日々の生活の中で少しずつ習得していく事がなによりも大切であり、意欲的に取り組むための言葉掛けは子ども達の何よりの励みになっていると感じています。どの子も毎日、自分の身なり、ロッカーの整理整頓に気を配り、気持ちよく保育活動に取り組むことが出来たと考えます。

園全体での活動も多くなり、縦割りでの活動を楽しむことが出来ました。みんなでの活動は小さな社会では味わえない素晴らしい体験を子ども達にもたらししてくれました。大人数だからこそできる集団遊びも機会が多くなり、そこからの学びもたくさん出来たように感じます。

多くの友達との関わる機会が増えたことで、友達との衝突などもありましたが、そこから自分はどうするべきかを園児が自ら考え、行動に移す姿もみられました。相手を思いやる心はこういった衝突から学ぶこともあると、園児自身が学ぶことが出来ました。

仏参では、仏様のみ教えや親鸞聖人のみ教えを通して、道徳的な学びも深めていく事が出来ました。日常生活の中の自分の行いや気持ちの持ち方などを学び、一人一人が周りを思いやって行動できるようになったと感じています。

○今後取り組んでいくべき課題

- ・令和5年度から始まった常磐小学校への学校見学。校舎や授業の様子を見学させてもらい、子ども達は小学校生活に意欲や期待を持つことが出来たが、子ども達の小学校への就学が更にスムーズにいくように取り組んでいきたいと考えている。